

\*\*\*\*\*2021年10月11日(月)開催\*\*\*\*\*  
「みんなで考えよう！新・福岡県立美術館～書くぞ！パブコメ～」レポート  
---みんなケンビが好きだから---

(文責:古賀弥生)

新・福岡県立美術館の基本計画素案に対する意見募集(2021年10月15日まで)に対応して、みんなでケンビのことを考え、「自分ごと」としてパブコメを書くことを念頭に素案を読んでみよう！ということで急遽開催を決めた「みんなで考えよう！新・福岡県立美術館」。Zoomでの開催に25名の方が参加してくださいました。

当日の流れは以下のとおりでした。

19:00 趣旨説明、登壇者紹介

\*ここからの進行:大澤寅雄さん

ゲストトーク(鬼本佳代子さん、川浪千鶴さん、原田真紀さん)

20:00 休憩

20:10 グループディスカッション

20:40 全体トーク

\*大澤さんの「パブコメを書くコツ」を伝授するコーナーも。

21:30 終了

ゲストトークのトップバッター・鬼本さんは、ICOMでの議論や博物館法改正の動向を踏まえ、これからのミュージアムが果たすべき役割として認識されているポイントと重ねると、新福岡県立美術館の計画には社会との関わり面で不足する部分があると指摘しました。長くケンビに関わってこられた川浪さんからは、ケンビの歩みの振り返りからその「いいところ」が紹介され、「ケンビの良さ、これまでの取り組みが計画案に反映されていない」と熱を込めて語られました。そして原田さんからは、他県・市の美術館のコンセプトと今回の計画案を比較。「主体はだれ？ その美術館、ワクワクしますか？」と投げかけが。お三方のトークは進行役の「聞き上手&話し上手のとらおさん」こと大澤寅雄さんによって簡潔にポイントが指摘され、参加者に提示されました。

休憩をはさんだ後半のグループディスカッションは、あらかじめ参加者にお尋ねしていた「計画案の構成のうち関心のある部分」に従って班分け。ゲストのお三方をファシリテーターとして3班で話し合った内容を、全体トークで共有していただきました。その内容から大澤さんがまとめたポイントは

- ①新福岡県立美術館と、すぐそばに立地する福岡市美術館との連携や差別化に触れていない。
- ②「革新的な技術」など新しさを強調しているように見えて、内容をよく読むとそうでもなく齟齬がある。
- ③内容を盛り込みすぎて、何を優先するのかが見えてこない。

といった点でした。

最後のコーナー「パブコメの書き方」では、大澤さんから以下の2点が提示されました。

●美術館ができるまでには「基本構想」→「基本計画」→「基本設計」→「実施設計」という流れがあり、今回は「基本計画」への意見募集であることを踏まえ、今、ここで言うべきことを考えよう・・・敷地に関する事、建築デザインに関する事など、基本計画の段階ではないことについての意見は、提出しても生かされない。

●受け止める側(今回は福岡県)が受け止めやすい書き方を心掛けよう…そのために①具体的に、どのページ、どの文章、どの文言に対する意見か示す②文章や文言の修正や挿入の案を提示する③批判に終始せず、賛同できる意見には賛意を示す④簡潔に要点を伝え、建設的な意見を提示する、といったポイントが示されました。

ゲストや参加者のみなさんが出してくださった意見で、古賀が個人的に響いたのは、

- ・あれもこれも盛り合わせた「足し算型」の計画だが、現場を担うのは「人」。その「人」たちの意見は反映されているのだろうか
  - ・これまでのケンビの取り組みをもっと評価して、そのうえで何ができるのかを考えよう
  - ・県の美術館なのに県域全体への目配りはできているのか
  - ・開館は8年後だし、その後数十年は運営されるものなのに、「今」の視点になっていないか
- といった点でした。

また、いったん終了したあとも続いたお話のなかで大澤さんから指摘された、管理運営をPFIやコンセッション方式といった民間の力を導入する方式も含めて検討している点の危うさや30年後の大規模改修も視野に入れた計画になっているか、という点も「なるほど」。

計画案に対する辛口コメントが多かったように思いますが、それもこれも、ケンビを愛すればこそ。よりよい未来のケンビのために、古賀もパブコメを書きます！

「新福岡県立美術館基本計画(素案)」に係る意見募集(10月15日(金)17:15必着)

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/.../shinkenbi-sakutei07.html>

\* 今回の催しはみなさん手弁当で関わってくださいました。聞き手の大澤さん、ゲストトーク&ファシリテーターの鬼本さん、川浪さん、原田さん、そして見えないところでZoomの運営を支えてくださいました九州大学の長津結一郎さんに心より感謝申し上げます。